



豊かな海を目指して

造成藻場を活用した アワビ放流の試み



アワビ種苗の放流

背景・目的

- 近年、日本近海では海藻が消失する「磯焼け」現象が問題視されており、海藻を餌とするアワビ等が減少しています。このため、浜岡原子力発電所では豊かな海の回復を目指して発電所前面海域で藻場造成に取り組んでいます。
- その結果、徐々に藻場が回復してきたため、アワビの放流を始めました。
- しかし、放流したアワビがほとんど発見できないため、うまく定着していないと考えています。

研究の取り組み

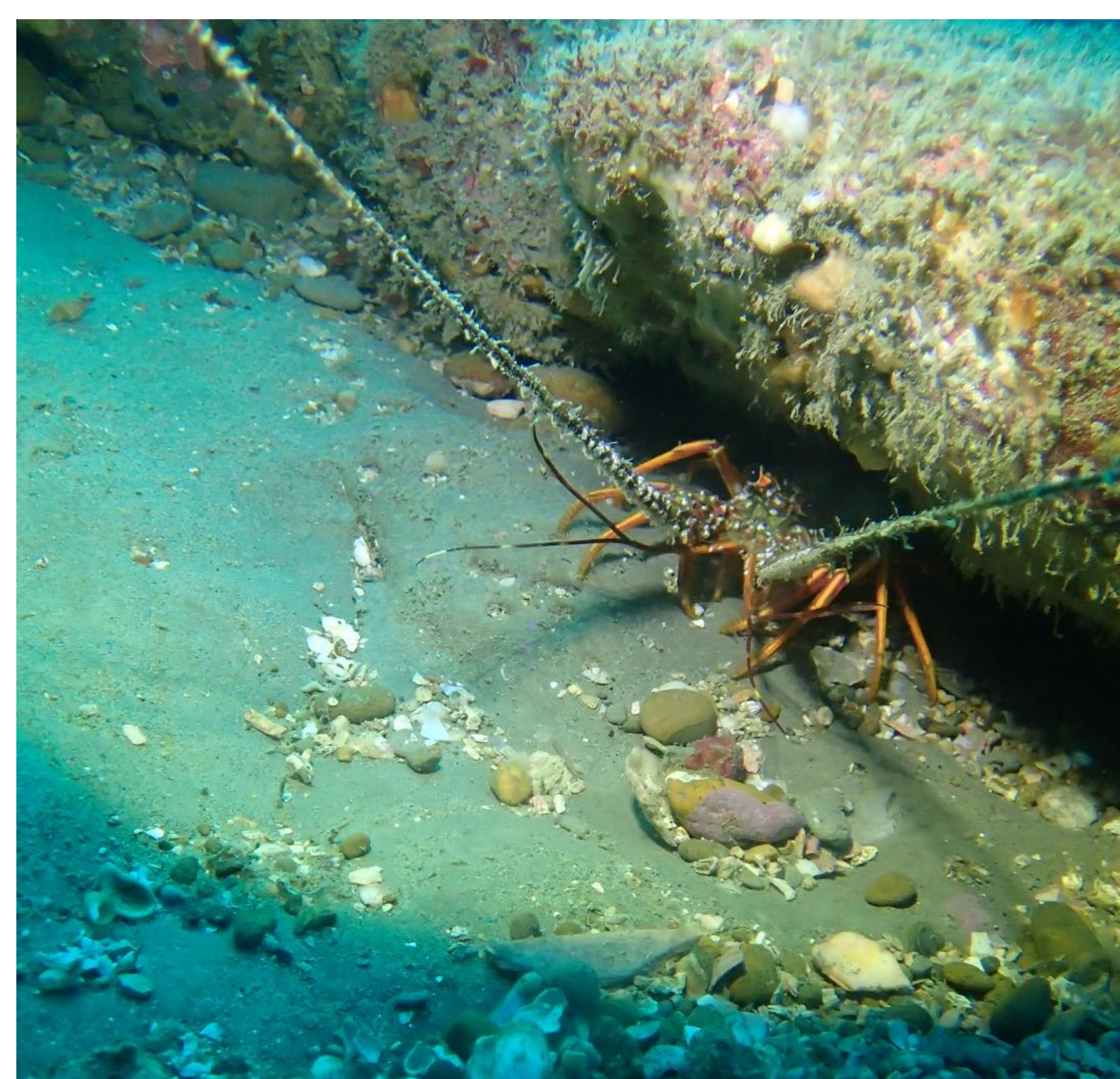
- 放流したアワビがうまく定着しない原因のひとつは、外敵生物による食害と考えられます。そこで、どのような外敵生物が、いつ、どのくらい出現するかについて調査を行いました。
- また、放流時期や放流サイズを決める際の参考にするため、先行してアワビ放流を実施している研究機関に対して聞き取り調査を行いました。
- 今年度からは発信機を装着したアワビを放流し、放流したアワビの行動範囲や行動パターンを明らかにする予定です。
- さらに、放流したアワビの隠れ場所を人工的に作るなど、放流場所の整備(アワビ礁の設置等)を検討したいと考えています。

今後の予定

- 外敵生物の出現状況やアワビの行動範囲を加味して放流場所や放流時期を検討するなど、適切な放流方法等を確立し、発電所前面海域におけるアワビの定着率向上を目指します。



発信機を装着したアワビ
(飼育試験としてダミーを装着)



出現した外敵生物の一例
(左：イセエビ 右：ウツボ)

開発者の ひとこと

かつて御前崎海域ではたくさんのアワビが水揚げされたと聞いています。そのころの豊かな海を取り戻せるよう、研究開発に取り組んでいきます。